

# 室町殿跡・上京遺跡発掘調査広報発表資料

2020年4月3日

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所在地：京都市上京区御所八幡町 110-13 他

調査期間：2020年1月27日～4月8日（予定）

調査面積：約 120 m<sup>2</sup>

解禁日：4月11日

## 1. はじめに

本調査はビル新築工事に伴い行っています。当地は、室町殿跡および上京遺跡に該当します。

室町殿は、室町幕府の足利将軍の邸宅で、3代将軍足利義満が造営したことに始まります。「室町殿」の名称は、その位置が北小路（現在の今出川通）の北、室町通の東にあり、邸宅の正門が室町通に開いていたことによります。また、別名「花の御所」とも呼ばれていました。義満の死後も歴代将軍の邸宅として利用され、室町幕府の名称の由来となっています。

## 2. 調査の成果

今回の調査では、室町時代の庭園の一部が見つかりました。庭園は池部と陸部からなり、池部は南岸と東岸がみつき、池は調査区の北西から西側に広がっています。池の南岸には、長さ2mを超える巨大な石を含めて、8石の景石群が見つかりました。そのうちの6石は石同士が接して組み合わされており、滝組とも見える配置になっています。ただ、陸部には遣水などの導水施設は認められないことから、枯滝であった可能性もあります。いずれにせよ、石の巨大さなどから室町殿の庭園を構成する主要部とみられます。

また、陸部の構築には、粘土質の土と砂礫を交互につき固めながら厚さ90cmほど造成土を盛り上げていること、景石を据え付けるために、拳大よりもやや大きな円礫をその下部に敷き詰めていることなど、丁寧な土木作業が行われていることが分かりました。造成土の中からは15世紀中頃の土器が出土しています。また景石群は、16世紀前半には埋められてしまっていることから、これらが据えられたのは足利義政の室町殿造営工事に伴うものと考えられます。

## 3. まとめ

これまで室町殿跡では8回の調査が行われています。今回の調査地周辺では、これまでの調査で池や景石がみつかり、それらの成果から、池の規模は南北約45m、東西60m以上と広大なものであったことが分かってきています。今回の調査地は、その池の東端にあたり、東から延びる半島の一部ではないかと推測されます。

また、同志社大学寒梅館の調査では、室町殿の北端となる築地堀の痕跡や建物跡などがみつかりました。室町殿は、その北側に建物群、南側に池を中心とした庭園という、空間構成も明らかになってきており、これは、16世紀前半に描かれた洛中洛外図（上杉本）の室町殿の姿とも符合します。

今回の調査によって、池の東端が確認されその規模が明らかになったこと、義政の造営工事が大規模なものであることが明らかとなりました。

なお景石群は、工事関係者の御厚意により設計変更が行われ、地中に保存されることになりました。

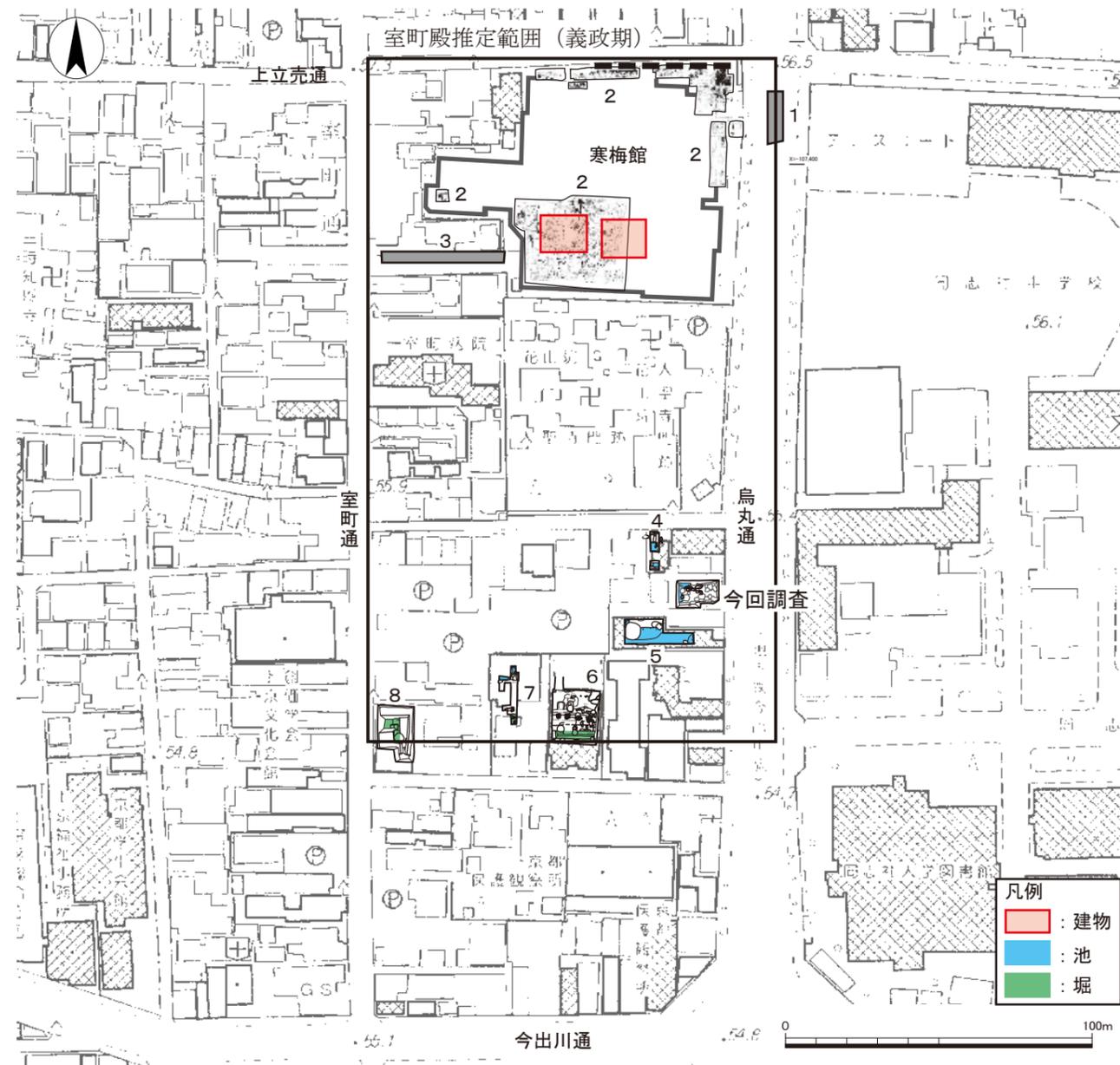


図1 調査位置図（1：2,000）

表1 室町殿略年表

西暦	年号	将軍	事項	西暦	年号	将軍	事項
1368	貞治7年	足利義詮(2代)	崇光院、義詮より寄進された院の御所に移る。花の御所と号す。	1445	文安2年	足利義政(8代)	室町殿から寝殿などを烏丸殿に移す。
1378	天授4年/永和4年	足利義満(3代)	義満、院の御所跡地と今出川公直の菊亭跡地を併せて邸宅の造営。菊亭部分施設が完成。	1458	長祿2年		室町殿造営開始。
1379	天授5年/康暦元年		義満、北側の院御所跡地の花邸に移る(上御所・北御所)。	1459	長祿3年		烏丸殿から室町殿へ移る。
1381	弘和元年/永徳元年		室町殿完成。後円融天皇が行幸。	1460	長祿4年	室町殿ほぼ完成。	
1382	弘和2年/永徳2年		相国寺造営開始。	1461	寛正2年	室町殿の大改築を行う。長祿・寛正の大飢饉。	
1392	明德3年		相国寺完成、南北朝合一。	1467	応仁元年	応仁の乱勃発。後花園上皇・後土御門天皇、兵火を避け室町殿へ移る。	
1397	応永4年	足利義持(4代)	義満、室町殿から北山殿へ移徙。	1476	文明8年	足利義尚(9代)	室町殿焼失。義政、小川殿(現在の宝鏡寺敷地)へ移る。
1408	応永15年	義持、北山殿から三条坊門邸に移る。	1478	文明9年	応仁の乱終息。		
1425	応永32年	足利義量(5代)	相国寺火災。室町殿の清和院地蔵に参籠していた人々が消火活動を行う。	1479	文明11年		室町殿造営御事始め。
1431	永享3年	室町殿を全面撤去して再築を始める。	1482	文明14年	義政、東山山荘造営を開始。		
1432	永享4年	足利義教(6代)	義教、室町殿奥会所に移る。	1485	文明17年		「花の御所跡」に土一揆の衆が集結。
1441	嘉吉元年	嘉吉の乱。義教、赤松教康に討たれる。	1487	長享元年	「花御所」の浅水の巨石を伊勢貞宗の指示により三百人で運びだす。		

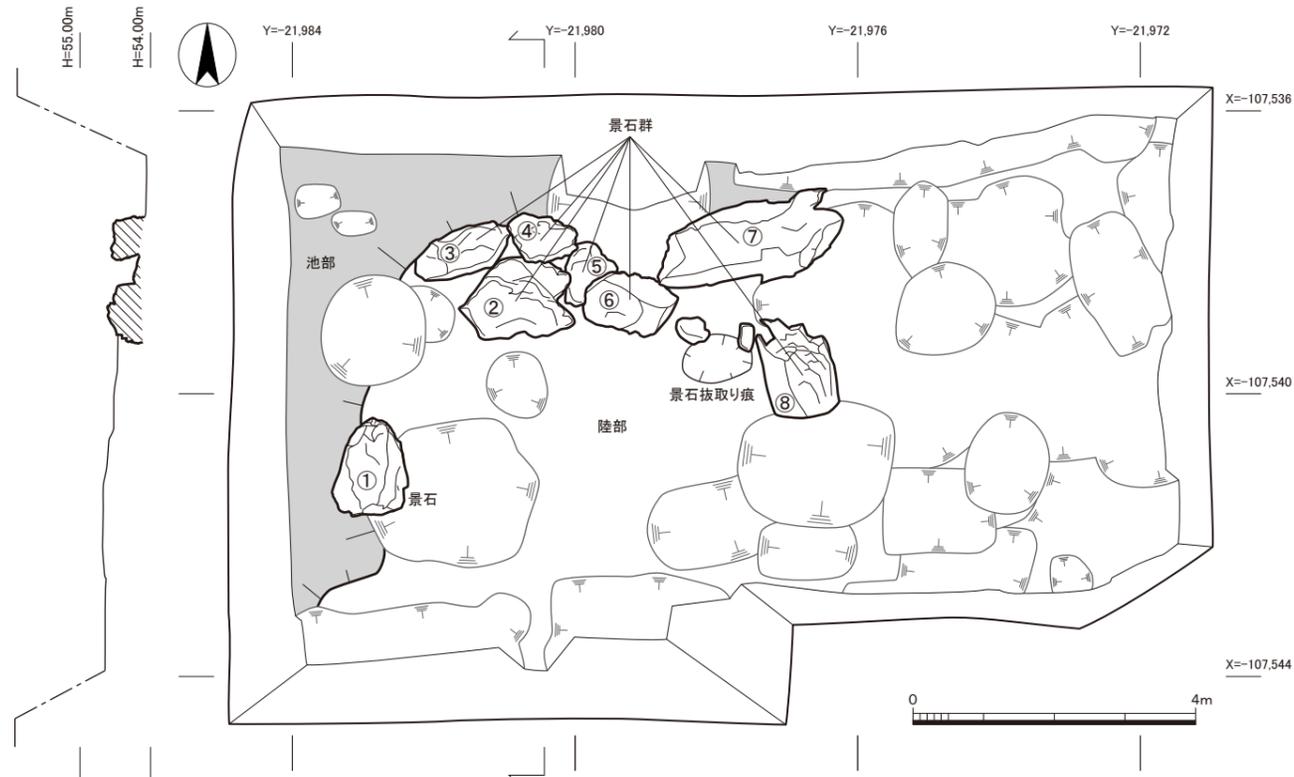


図2 室町殿 1・2区全体実測図(1:100)

表2 景石一覧表

景石No.	石材	長径(cm)	中径(cm)	短径(cm)	重さ(推定、kg)
1	ホルンフェルス	140	100	45	1600
2	頁岩ないし粘板岩	160	120	65	3100
3	チャート	145	65	50	1200
4	チャート	95	70	65	1100
5	珪岩	101+	95	70	1700+
6	チャート	130	90	50	1500
7	チャート	275	120	115	9800
8	チャート	165	110	85	4000

※+は石の下半が土中にあり全体規模が不明なものを示す



図4 検出した景石群 (左:北西から、右:北東から)

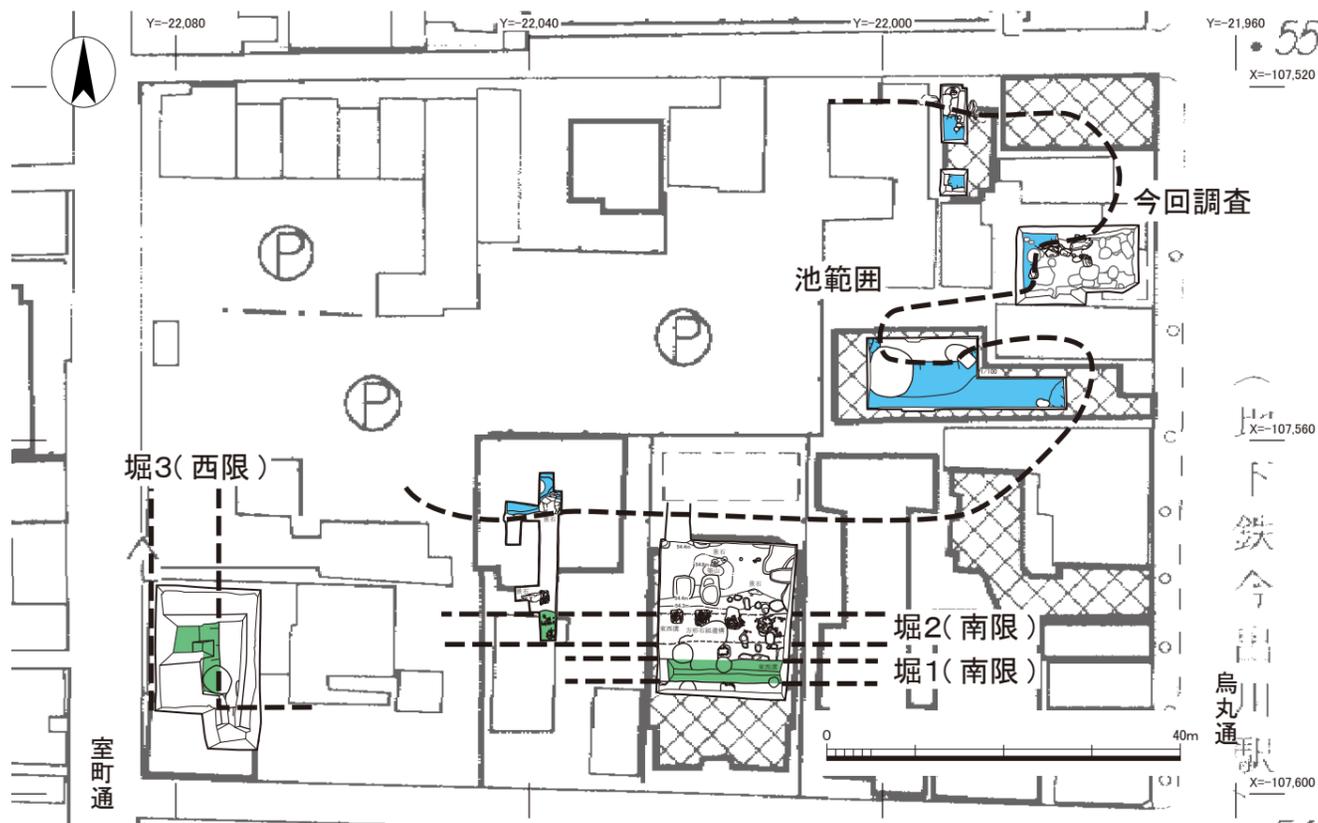


図3 周辺遺構配置図 (1:800)

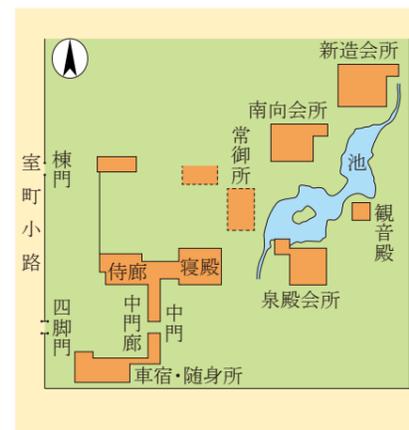


図5 足利義教室町殿舎配置図  
「茶道文化選書 町屋の茶室」  
中村利則著 淡交社刊



図6 洛中洛外図(上杉本)に描かれた  
室町殿(東から見たようす)